2013 スマート・クルーズ・アカデミー参加体験記

＜天津⇒富山＝室蘭＝東京 8 泊 9 日 on ボイジャー・オブ・ザ・シーズ＞

＜クルーズ活性化会議ジョイント企画＞

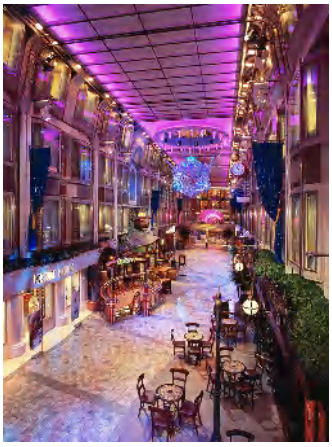
大阪大学国際公共政策研究科・公共政策学科ジョイントクルーズ体験企画

シップデータ

ボイジャー・オブ・ザ・シーズ
総トン数　137,276 トン
乗客定員　3,114 人
乗組員定員　1,181 人
全長　310M
全幅　48M
巡航速度　22 ノット
就航年　1999 年

		スケジュール	入港	出港
1	9 月 6 日(金)	7:15　関西空港集合 CA162 0930 関空発　11:50　北京着 17-　ホテルへ		(北京市内宿泊)
2	9 月 7 日(土)	8-　各自チェックアウト後、 12-　天津港で乗船(チェックイン) 15-　船内説明会	-	18:00
3	9 月 8 日(日)	午前　OSIPP セミナー 午後　クルーズ活性化会議セミナー 終日クルージング (FORMAL NIGHT)	-	-
4	9 月 9 日(月)	終日クルージング (OSIPP イベント DAY)	-	-
5	9 月 10 日(火)	富山(入国審査有)	09:00	18:30

その後、一部学生は、室蘭(9 月 11･12 日)・東京(9 月 13 日)まで乗船



スマートクルーズアカデミープログラム

9 月 8 日 午前 10-12 OSIPP 国際公共政策レクチャー（日本の将来に向けて政策を考える）
（at 船内コンファレンスルーム）

（講演内容）

１）星野俊也（大阪大学国際公共政策研究科長） 「日中交流拡大のための政治的課題と戦略」
２）山内直人（大阪大学教授）「中国の日本への意識調査について」
３）赤井伸郎（大阪大学教授）「世界・日本のクルーズ事情と日本の港湾政策」、

9 月 8 日 午後 14-15 クルーズ活性化セミナー
（at 船内コンファレンスルーム）

（講演内容）

１）ミキツーリスト「ロイヤルカリビアンクルーズの近況」
２）上田寿美子（クルーズライター）「アジアクルーズの将来」
３）赤井伸郎（クルーズ活性化会議顧問）「公共経済学から見た地方自治体の役割と説明責任
－港湾インフラの活用政策の実行にむけて－」

クルーズ体験における感想

乗船時の感想

- 室内の設備に関する日本語訳が分かりづらく混乱しました。しかしその後、日本語で船内説明会が行われ、わからないことを質問できたため、不安を解消することができました。
- 避難訓練のおこない方が、サンプリンセスの時と比較すると雑だったように感じました。多くの乗客が雑談をしており、しっかりした訓練になっていたかは疑問。
- 今回は2回目の参加だったので、前回のクルーズと比較しながら参加することを心がけ、プリンセスクルーズ、ロイヤルカリビアンそれぞれの特徴も見えてきた。ボイジャーオブザシーズは前回のサンプリンセスと比較するとかなり大きく、そのスケールの大きさが前回よりも驚きだった。下船時に船の外観をみるよりも、船内にいるときの方が船内の大きさをより肌で感じた。特にアーケードやエレベーターホールの吹き抜けがとても広く、まさに船の中ではないようだった。下船時に船の外観をみると、よくこんな大きな船が動いているなと思った。
- やはり一番初めに見た船の印象は、「大きい。」近づいてみると、塗装のはげているところや、さびなどもなく、管理・補修が行き届いていることがわかる。
- ホテルのような内装で、他の船に乗った時と感想は同じであるが、「船の中とは思えない」。
- 船内は清潔に保たれており、部屋、トイレ、ショップ、カフェ、廊下、デッキの手すりに至るまで、不潔感を感じたことはなかった。この点は日本人旅行客にとって最も大切な点であると思う。

船内サービスの感想(食事・レストランサービス)

- プールサイドでは、できたてのBBQ風の食事を提供していました。味はもちろん、雰囲気も最高でした。
- ウェイターさんたちがすごくフレンドリーでした。お互い片言の英語でしたが、お互いの出身地や北海道観光についてなど様々な話題で会話を楽しみました。
- 食事は、サンプリンセスのほうがおいしく感じました。焼き加減がまちまちだったり、塩加減がまちまちだったりと調理自体に問題があるように感じました。また、オーダーミスが多く、サーブが遅いため、アイスがドロドロに溶けてしまっていたり、ウェイターさんがメニューを正確に把握していないのでは？と思うこともあったりと、サーブに問題を感じることも多々ありました。ただ、オープンシーティングの時にはそうした問題を感じることはなかったので、問題があるのは一部のウェイターさんなのだと思います。
- 飲み物はとてもおいしかったです。特に、コーヒーとレモネードは無料だとは思えないほどおいしかったです。個人的には、フリーのコーヒーのほうが、船内で販売していたスターバックスコーヒーよりも美味しく感じました。また、深夜1時まで飲み物だけでなく、サンドイッチやクッキーを無料で食べることができたので、おやつや夜食に困ることはありませんでした。クッキーもサンドイッチもとてもおいしかったです。日本では見かけないフレーバーですが、ピーナッツバターのクッキーがとても気に入りました。また、冷たい水をフリーで頂けたこともすごく助かりました。
- 早起き（06:30起床）して朝食のビュッフェに。スコーンがあったので（サンプリンセスを思い出しながら）食べてみるとなかなか美味しかった。ビュッフェではパン、シリアル系は美味しかったが、野菜のレ

パートリーが少なく、ベーコン・ソーセージ類のレパートリーが多かった。

- レストランで昼食を取る。サラダバーはスタッフに具材を指定して自分のオリジナルサラダを作ってもらうシステムだったが、量の融通がきかず結果的に常に多めになってしまった。ハニーマスタードドレッシングがとても美味しかった。ランチメニューはどれも美味しかった。ハンバーガーのメニューが本格的でボリュームも満点だった。
- 朝食に向かった。ビュッフェなどに設置されているコーヒーが SEATTLE'S BEST COFFEE のものでとても美味しいことに気づく。コーヒーは完全にロイヤルカリビアンの勝利。
- レモネードの濃さがまちまちで少し気になった。
- ディナー後はバーでサンニさんオススメのビールを飲んだ。美味しかった。
- 食事はおおむね美味しかったが、全体的に大味だった。外国船のせいか、量がとても多く日本人にはあまり向かないように思う。11 階のビュッフェではあまり代わり映えの無いメニューで 1 週間も乗っているとすこし飽きてしまった。ビュッフェではサラダなどの野菜メニューが少なく、肉が多かったので、バランスの取れた食事を取るのに苦労した。ディナーでもビュッフェでも日本語のメニューがあったが、誤訳が散見された。ビュッフェであれば無理して日本語訳を表記しなくとも、英語でも大丈夫だと思う。美味しかったのは、レモネード、コーヒー、ポテト類、ベーコン・ソーセージ類、ドレッシング、ディナーのデザート類など。
- 船内のサービスは全体的にあまり徹底されていない印象を受けた。特に食事の提供ミスが多く、肉の焼け具合がまばら、デザートのアイスが提供時に溶けている、注文と違う品物が来る、などがあった。また、食事の提供時間がとても長く、だらだらと準備・提供している印象を受けた。
- 食事は全体的に西洋風であり、日本料理といえるものはほとんどか、あるいは全くなかった。サン・プリンセスでは日本料理を提供するダイニングがあったことを考えると、日本人旅行客には少し不満となるところかもしれない。今のところ、日本人の乗船客は年配の方が多いので、その点が日本人旅行客の参加障壁になる可能性も考えられる。
- 船での食事で、味などの点で不満に思うことはなかった。口に合わないものもあったが、海外旅行の感覚で来ると現地味覚に慣れきれないことは当たり前であり、それほど不満に思うものではない。
- 日本語のメニューの信ぴょう性には問題があったが、好き嫌いがあまりない私には、何が来ようと特に気にならなかった。しかし、デザートに関しては若干気になった。
- パンとクッキーがおいしかった。
- フリーシーティングの日には、中途半端な時間に行ってしまったにもかかわらず、嫌な顔一つされなかった。また、北海道の夜であったが、クルーたちも北海道観光を楽しむ気まんまんでいるのか、北海道のことを色々尋ねられた。また、日本のことに関しても冗談を交えた楽しい会話ができ、素敵なディナーとなった。
- 改善して欲しい点は料理です。コース料理を頼むと料理が冷めていたり、アイスが溶けていたりしていました。
- 毎日フルコースなどのおいしい料理を、いつでも食べられる環境であり、とても幸せであった。しかし、毎日カロリーの高そうな食事メニューであり、途中で胃がもたれることもあった。欧米人にあった食事なのであろうが。経費がかかる可能性もあるが、さまざまな国の人を呼び込むためにも、日本食を含め、さまざまな国の料理を取りそろえるなどし、より食事を楽しめる環境を作ることが、集客には必要なのではないかと感じた。

船内サービスの感想(エンターテイメント)

- ショーは毎晩素晴らしかったです。どのショーも、お金を払ってでも見る価値があると感じました。それをすべて無料で見ることができ、とてもぜいたくな気持ちになりました。ショーが行われる前のパフォーマンスも楽しく、早めに席について開始を待とうという気持ちになりました。同乗した仲間たちが壇上に連れて行かれるなど、言葉がわからないことがあってもとても楽しい気分になることができました。
- 食事の終わる時間帯に開催されるショーは、生演奏ということもあり迫力がある。
- 着ぐるみのショーは子どもには喜ばれるだろうと思ったが、子どもの姿はあまり見なかったような気がする。(私は着ぐるみが苦手なので見ていない)
- 英語を理解できないままアイススケートショーに出演。英語修得の必要性を感じたものの、音楽、舞台などの芸術は言葉を越え世界中の人のコミュニケーションツールになると実感した。
- スケートショーが開催されました。船上であることを忘れて楽しむことができました。リンクは小さく感じましたが、手が届きそうなほど間近でジャンプやスピンを見ることができ、とても興奮しました。一緒に乗船した仲間がショーに参加することになり、驚きましたがとても楽しむことができました。
- アイスショーに行った。ショー自体は素晴らしかったが、コンセプトがよく分からなかった。
- 船内でアイスショーも開かれていたが、日本でも見に行く機会のないアイスショーを間近で観覧できるのには感動した。
- アイススケートショーはパフォーマンスに迫力もあって満足でした。
- アイスショーの見学。船内にアイスリンクというだけでも驚きだったので、そこで見られる煌びやかなアイスショーは非常に面白かった。こうしたショーが込みでの価格であることを考えると、クルーズの価格はお得だと捉えるひとも多いのでは と感じた。
- 夜のショーは初披露の演目とのことだったが、やはりフリーで（費用が別途かからず）見に行くことのできるショーとしては非常にクオリティが高かった。９日間のクルーズ全日を通して、ショーは毎日楽しみのひとつになるほどであった。

船内サービス・施設の感想（Activity・イベント）

施設

- シアターの広さに驚いた。
- 船首や操縦室を見ることができました。船員さんがこちらに気づいて手をふってくれた姿が印象的でした。
- 縁起が悪いのでタイタニックごっこはしませんでした。＜補足：ボイジャーは、船首まで歩いていける貴重な船です。＞
- 船内でまたも迷子になり、チャペルに迷い込みました。とても静かで明るく、素敵な雰囲気でした。もし、自分が結婚したら結婚式はこういう場所でしたいなあ…などと夢が膨らみました。水着で迷い込んでしまったことが恥ずかしくなりました。
- プールに入りました。水温が冷たくて驚きました。改めて 9 月中旬の北海道付近で海水浴をしていることに気づかされました。普通ならばあの季節に日本のあの場所で泳ぐことはかなり厳しいのではないかと思います。通常ならば季節外れのアクティビティを問題なく行うことができるのもクルーズの醍醐味なのかもしれないと感じました。
- 太平洋を眺めながら日光浴をしました。海以外何もない光景がとても雄大に感じました。深い緑とも青ともつかない海は、はじめて見る色をしていて、いつまで見ていても全く飽きませんでした。（そのせいで真っ黒に日焼けしていました。笑）
- アダルトオンリーのプールに入りました。アジア人は若く見られるせいか、欧米人にじろじろ見られました。とても静かな雰囲気で、思わず声をひそめてしゃべってしまうほどでしたが、のんびりした時間を過ごすことができました。
- 船内が広すぎて何度も迷子になりました。その都度、キャストさんやほかの乗客の方に助けていただきました。ポケットに入るサイズの小さな携帯用地図があればよかったと思います。船内に設置されていた立体型の地図のようなものは自分が今、何階のどのあたりにいるのかがはっきりわかり、方向音痴にはとても役に立つものでした。
- アクティビティの設備が充実していて、終日航海日が続いても全く飽きることがなく、時間がないと感じるほどだった。（実際時間は足りなかった）球技コートは他の乗客とも交流が出来て、日常生活ではバスケットやバレーはなかなか出来ないので良いリフレッシュとなった。ゴルフ、スパ、フィットネスセンターは今回体験しなかった。（時間が足りなくて出来なかった）
- プールもサンプリンセスより大きく、子供用、大人用、通常のプールと分けられていることに驚いた。プールサイドで BBQ のように食事を提供している点も良かった。ここの肉がとても美味しかった。アイススケートリンクの解放時間がもう少し長ければなお良いと思った。
- ゆっくりと時間が過ごせる場が多かったことです。映画館やゆったりと読書のできる場所が十分にあったおかげで船でのアクティビティに疲れても時間を有意義に過ごせ、充実した日を過ごせました。
- 非常に大きな船であったので、船内が一つの町として成立しているような感覚に陥った。たくさんのバーがあってピアノやギターの生演奏が気軽に聞けたり、いろいろなアクティビティが楽しめたり、時に友達を作って談笑できたり。富裕層が余暇を楽しむのにはぴったりであると感じた。反面、さまざま催されるイベントについては、もう少し改善の余地があると思う。クイズなど、集客率の悪いイベントは減らし、多様な人種の人がもっと関わるきっかけを作れるものがあったらいいのにと思った。

フォーマルナイト

- 一回目のフォーマルナイト。サンプリンセスと比べるとカジュアルだと感じました。サンプリンセスの様に、早めに集合して、写真など撮ろうと思うと、まだ T シャツ・短パンの方が多く少し恥ずかしく感じました。写真を撮るスポットもあまり多くないように感じました。<補足：通常は、ファーストシッティングの夕食開始前にも写真スポットはあるが、今回は、夕食後からスタート、カメラマンスタッフの人数の関係かも知れない。理由は不明。＞
- おしゃれをして、フリーのシャンパンで乾杯し、素敵な気分を満喫しました。
- 2 回目のフォーマルナイト。人生で初めて取材＜日経新聞の記者による記事（2013 年 9 月 25 日の日経 MJ に掲載された＞のようなものをうけるなど、すごく新鮮な経験ができました。
- フォーマルナイトがもう一度あったのは予定外であった。完全に２日目の一度きりだと思っていたため、準備に少し手間取った。しかし、慣れてきたころにもう一度フォーマルナイトがあると、少し周りの空気感もつかめるようになってきてからということもあり初回より楽しめたように思う。
- カジュアルなクルージングだからこそ、たまのフォーマルナイトの煌びやかな雰囲気が一層素敵に感じられた。特に日本人はパーティの文化にはあまり慣れていないひとも多いため、旅に緩急をつける良いスパイスだと思う。
-

航路・日程

- 海を見ながらの朝食。航跡が正面に見える席でのんびり朝食を頂きました。知り合いの方がおっしゃっていた「どこまでも続く水平線と白いスクリューの跡をのんびりながめることもクルーズライフの醍醐味」という言葉を思い出しました。
- 北海道が目の前に見え、これから上陸することを思うととてもわくわくしました。漁業で使われる浮のようなものや小さな船をぎりぎりでよける操縦テクニックにも感激しました。
- 終日航海日が二日続くというのは初めてだったが予想外にあまり退屈しなかった。
- 　また、船上で、海の真ん中から、海の美を初めて知った。更に、海上から、「日の出」と「日没」を拝見した。「オレンジの光が一瞬に世界をすべてオレンジに染めた」。このシーンがこんなにも「綺麗」だとは想像もしなかった。

船内イベント/ACTIVITY

- ショーが行われていたリンクでスケートをしました。氷は船内とは思えないほど良質で滑りやすかったです。 書類も数ヶ国語分用意されており、手続きは比較的スムーズだったと思います。
- アイススケートリンクの解放日だったので、滑りに行った。人が割と多かったが、リンク自体が広かったのでのびのび滑れた。
- アイススケートなど、いくつかのアクティビティを初体験。初回に承諾書を出せば、二回目以降 SeaPass のパンチング提示のみとなる仕組みは効率的で良かった。
- 終日航海日。バスケやアイススケート、ロッククライミングなど、ひと通りのアクティビティを体験した。芸術にならびスポーツもまた万国共通のコミュニケーションツールとなり、たくさんの人と仲良くなれた。ジャグジーのオーストラリア人との会話は印象的。
- 午前中はクライミング後にバレーボールをした。クライミングは半分くらいしか上れず、結構難易度が高

い感じだった。バレーボールは時々メンバーが変わりつつも、かなり盛り上がった。クルーズ中、バレーボールはこの日しか出来なかったが、もう少し頻繁に開催してくれると嬉しい。

- 船内で迷子になっていたら、『シュレック』に登場する長靴をはいた猫に遭遇！一緒に写真を撮ってもらいました。
- 様々なアクティビティに参加しました。体を動かした後はレモネードを頂いて水分補給。すべてを海を見ながらできるなんて最高！
- 海の上にいるんだ、というわくわく感をすごく感じたクルーズでした。特に、太平洋側を航行中は、海の広さを感じました。ボイジャーは、ゆっくり過ごしても、忙しく遊びまわっても楽しめる船だったと思います。
- アクティビティはほとんど若年層向けなので、シニア層や運動嫌いな人は終日航海日が続くと退屈してしまうかもしれない。
- 船内アクティビティで利用したのは、ジム、アイススケート、ロッククライミング、ローラースケート、卓球。ローラースケート、アイススケートは運動音痴の敵、かなりきつかった。ジム、アイススケートには服装に関して規制があり、（ジム：運動靴、アイススケート：長ズボン）確認不足か、書いていなかったのか、事前に知らなかったので冷や汗をかくこともあった。長ズボンは 7 分丈のズボンでも可能だったのでよかった。
- ロッククライミングは頂上まで登ると高いところから海を眺めることができる。私は途中で怖くなって目をつぶってしまったためその景色を見ていない。
- 卓球やスポーツコートは夜間でも解放されており、眠れない夜にぴったりだった。
- 終日航海日が多かったが、日々色々なアクティビティを体験したのであまり退屈には感じなかった。船内にいる間、窮屈さを感じなかった。午前中はアイススケートをして、屋上のインラインスケートも体験した。途中で雨が降ってきたので少ししか滑れなかったが、思ったよりコースが長くて楽しめた。

船内サービスの感想(キャビンサービス、その他)

- キャストの方が皆さんとてもフレンドリーでした。しかし、乗船客からの評価ををあまりに気にしすぎていて、こちらが気を遣う場面がありました。また、特に、決してよいサービスを行っているとは言えないキャストさんから、「良い評価をしてくれ」と言われ、微妙な気持ちになりました。
- 毎日船内新聞の内容を各国語で解説してくれるテレビチャンネルはとても便利でした。通訳さんのキャラクターも面白く、毎日中国語バージョン・日本語バージョン・韓国語バージョンを、言葉はわからなくても楽しみにチェックしていました。
- 催し物がとても多く、どこに行こうか迷ってしまうほどでした。終日航海が続いてもまったく退屈することなく、むしろ忙しいと感じました。
- 部屋の設備は、サンプリンセスよりも良かったと思います。特に水回りは、しっかりしたシャワーブースに取り外しのできるシャワーヘッド、ちょうどいい高さの便座など、サンプリンセスよりも新しいだけあって非常に気持ちよく利用できました。鏡を利用して部屋を広く見せるなどの工夫や、就寝時に鏡が気にならないように部屋を仕切るカーテンまで付いていました。クローゼットやドレッサーなどの室内に設置されている扉も、ドアノブを付けず、ドア自体に手をかける穴をあけ、少しでも空間が広く利用できるよう工夫されていたように思います。アメニティはあまり充実していませんでした。もしかすると部屋のグレードの違いかもしれませんが、シャンプー・トリートメント・ボディソープ・石鹸くらいがそろっていると便利だと思いました。一応シャンプーはあったようですが、表示も案内もなかったので、しばらく何に使うものかわからずにいました。
- サンプリンセス・ボイジャー両方に共通することですが、部屋の乾燥がすごく気になりました。毎日濡れタオルを干したり、お湯を沸かしたりしてみたのですが、全く改善されませんでした。
- ほとんど毎日、タオルアートでつくった動物が部屋の掃除後、置いてありました。部屋に帰るとかわいい動物が出迎えてくれてとても癒されました。また、今日は何が待っているのかと部屋に帰るのが毎日とても楽しみでした。サルがハンガーにぶら下がってお出迎えしてくれた時はとても感激しました。

- クルーにほとんど日本人はいなかった。日本語を話せるクルーもほとんどいなかった。そのため、船内では日本にいながら十分に海外気分を味わうことができる。また、クルーは日本人のクルーより恐らく**フレンドリーで、下手な英語でも色々と会話してくれるのでとても楽しめる。**
- 気さくに話をしてくれるが、決して無礼ではない感じに好感が持てました。
- Compass の不着（配達ミス）日本語 Compass の配達がある日と無い日が。同室者用の中国語 Compass はコンスタントに届く。
  - Cruise director staff の Isaac 氏に伝えたところ、即座に対応（明日の Compass 手配）および明日以降の日本語・中国語 Compass 配達の連絡。部屋の担当者を聞かれるも、ただ、部屋の掃除を担当してくださっていた方は非常に素敵な方だったため、「同室者の母国語は中国語なので、ふたりともに中国人だと思った彼女の気遣いだと思う」との旨も伝える。
  - **評価制度が端々まで浸透している様子は、様々なところで感じた。ただ、あまりそれが客へ伝わりすぎるのもひとによっては快く思わないこともあると感じる。**
- 下船前日、多くのスタッフの方に、「明日降りるの？寂しくなるね。」と声をかけられた。ラグジュアリー／プレミアクラスでは無く、カジュアルクラスは、フランク“すぎる”対応もあったと思うが、個人的には旅の思い出としてとても嬉しかった。

クルーズ全体の感想(その他)

- 下船後も船の揺れを感じることなく快適な船旅であったことに感謝。
- 自治体の方から、クルーズ誘致に関するお仕事の話を伺うことができ、非常に有意義な時間を過ごすことができました。
- 下船後、**船が見えるポイントで、何度も見えなくなるまで見てしまうほど名残惜しく感じました。下船して数時間でまたすぐ船に戻りたくなってしまうほどでした。**
- 個人的には、船の揺れがすごく気になりました。特に太平洋になってからがひどく、地面が揺れているのか、ひどいめまいがしているのかわからないほどでした。しかし、同室の友人はあまり感じないと言っていたので、個人差があるのだと思います。
- 夜にカフェでピザを食べていたら数日前に知り合った韓国人の乗客に辛ラーメンをもらった。このように乗客との異文化交流が度々あるのがクルーズのいいところのひとつだと思う。
- 船酔いは前回と同様問題なかったが、室蘭～東京の太平洋航路では今までのクルーズでは感じたことの無

い揺れを感じた。今までは小刻みな揺れという感じだったが、太平洋は大揺れという感じで、気分が悪くなる人もいたようだ。

- 前回の乗船でも感じたことだが、乗客はシニア層がかなり多かった。また天津発ということもあり、スタッフ、乗客ともに中国人が多く、前回のサンプリンセスとは国籍も雰囲気も若干違う印象を受けた。今回は、外国人もシニア層が多かったような気がする。（外国人の子供にあまり出会わなかった）前回のプリンセスクルーズと比べると、全体的にサービスの質が劣るように感じた。正規の値段では、相対的には、ロイヤルカリビアンのクルーズは少し高いような気がする。敷居がプリンセスクルーズほど高くないという点では、一般人にもロイヤルカリビアンは利用しやすいかもしれない。
- 英語を話す乗客、英語を話すクルーに囲まれているうちに、自分の感動詞が「あぁ。」から「Oh.」に変わってしまっていることに気づいた。
- （後日比較して気付いたのだが、）初日の Compass は案内も多く、少し厚目であった。日本人の旅客をターゲットにするのであれば、こうした案内だけでも（日程によって変わらないものなど）日本語の完全対訳が用意されていれば良いように思う。
- Compass に同封されていた案内の日本語訳がめちゃくちゃのものがあった。こうした不変的な案内には、テンプレートが作成されていれば良いと思う。【実際の和訳案内】Dear Voyager of the Seas Guest, =海のゲストの皆様、ボイジャー。
- 初めて SeaPass でクレジット決済を利用。下船前夜、支払いができていなかったことが判明。支払時にはレジを通っていたにも関わらず実際は支払えていなかったため、予想外であった。
- OSIPP DAY、セミナー開催：船内で出会った方にもお越しいただけた。船内の規則等に則ると難しいかもしれないが、様々なひとと気軽に話せる船内の雰囲気を鑑みると、将来的により Open なものにできれば更に面白い議論が交わせるかもしれないと感じる。
- 途中下船ということで、SeaPass を持ち帰ることができなかった。持ち帰ることができれば思い出のひとつになるのに勿体ないと感じた。システム上の問題等があるのだろうか。
- 「クルーズ」というもの自体への考えの変化：これまでは、クルージングといえば豪華客船で毎日きらびやかなドレスで…といったまさにタイタニックなイメージが先行していた。そのため、今回 Voyager に乗船したことで「カジュアルクルージング」に触れ大きく考え方が変わった。
- 24 時間営業の施設と日替わりの数えきれないイベントとダンス・コース、日々の過ごし方に悩む余裕が全くなく、むしろ一日は 24 時間では足りないという気がする。バイキングと全コースのフランス料理レストランは、食欲を引出し、日に 5, 6 食を食べる人も少数ではなく、多分それは欧米人の体型の大きさが原因かもしれない。イベントと食事を楽しめる方法はとてもいいと思うが、私にとっては、「VOYAAGER OF THE SEAS」なりの楽しみさは「友づくり」と「ストーリ・クレクション」の旅だった。

出会い

- バイキングで出会ったオーストリアでジャムを造る夫婦と「オーストリアの中国のコミュニティー」について熱いディスカッションをした。
- アフタヌティーでマンチェスターから家族旅行としてクルーズに参加している叔母さんと出会った。そこで、叔母さんの日本好きの息子のために、「秋葉原」を紹介した。
- 「英国人（British）ではなく、スコットランド人（Scotsman）である」と強調する「スカート」を穿いている訛りの強い英語を話すスコットランド人の若者達と東京銀座のショッピング・モールの行き方

を説明した。

- カナダへ移民し、香港と台湾の血統を持つ昔音楽を専門とした叔母さんとカラオケで出会い、音楽とボイスの操り方法を勉強した。
- 私はアイス・スケートの場でユダヤ教信者の同性愛のカップルと出会った。そこでスケートのノーハウをディスカッションする中で、向こうの方は大学で統計学専門の先生であるということを知り、エコノメトリックスの話も行った。
- 夜中のバスケット場で出会った中国東北地方からのスタッフさんと、船上の食事を話した。その中で、彼のグローバル的な船スタッフなりの海上のストーリを聴いた。
- ダンスパーティーで出会ったエンターテイメント部署に所属する中国人スタッフと彼のキャリア経歴の話とこれからのプランを聴いた。
- カフェで出会った香港の女性の英国留学経験と日本に対する深い興味を聴いた。今でも FACEBOOK でやり取りをしている。
- 独学でピアノをマスターしたフィリピン出身の船上のピアニストと私は、スターバックスのフリー・ワイファイの件で友達となり、デリー・ショーの後、ピアノを引いてくれた。
- 七日間で、沢山の人と出会い、話、沢山の友達が増えた。
- 「人々はバベルの塔を造り、神と接触することと願った。神は人々の言語を乱し、通じない違う言葉を話させるようにした。このため、人間たちは混乱し、塔の建設をやめ、世界各地へ散らばっていった。」-旧約聖書の「創世記」11 章。「VOYAAGER OF THE SEAS」の上で最初に「違う言語と違う文化」を感じ、「バベルの塔」をふと思い出した。私の目から見ると、インタナショナルの「VOYAAGER OF THE SEAS」の旅は、バベルの塔のようである。世界各地から「異なる言語や文化、知識」が集う中世界である。皆はお互いの異なりを感じたから、単独で行動をしていた。この七日間で出会った人々は、皆其々違いバックグランド、言葉があるが、この中日韓の線路を選んだ途端から、アジア文化に強い興味を持っていることはみんな共通なものだと思う。違う言葉、文化で、「バベルの塔」のように、交流と協力をやめる過去の人々と比べ、現在の私たちはこの大切共通点を生かし、「言語・異文化」という名の壁を壊し、新たな絆を結びつけ、「バベルの塔」の呪いを打破し、人と人の間の関係はもう一度築くことできると信じている。
- 異なる「壁」を壊しつつ、楽しく、自分なりの「VOYAAGER OF THE SEAS」の旅が有意義的だと私は思う。

寄港地対応について感想

- 今回、富山、室蘭、東京と 3 都市に寄港したが、地域によってクルーズを歓迎するムードが様々だと感じた。
- 寄港地の富山、室蘭で下船し、地域で実際に取り込んでいるスタッフさんの仕事姿を拝見し、サービスはまだ完備とは言えないかもしれないが、地域活性化のために、みんなの努力意欲が十分感じた。

天津

- 天津のクルーズ船用ターミナルに感動。（フェリーターミナルの規模でなく）あの大きさで船専用の国際線ターミナルは、日本ではまだ見られないように思う。

富山

- 富山着。がれき置き場に着いたのは衝撃的だった。

入国時

- 入国審査にかなり手間取りました。船内に長い行列ができており、移動もままならないほどでした。必ず行わなければならないのならば、乗客の動線を考えた上で、もう少しスムーズに行えるような工夫が必要なのではないかと感じました。
- 富山で寄港日。出国手続きにかなり時間がかかった。誰のせいかは分からないがとりあえず税関の担当者がすごく怒っていた。日本人相手だからってあんな風にキレるのは良くない。
- 下船手続きで大幅なロス。団体手続のようなかたちで並んでいるのか、別ルートの確保がされているのかなど、情報が曖昧で非常にわかりづらかった。旅行会社の方同士、入国管理の担当の方同士でも意思疎通がうまくいっていないように見えた。機関の連携を整えるか、せめて船側と旅行会社や旅行会社内でだけでも、旅客に求める手順の確認がとれていれば違ったのではないかと思う。

岸壁：シャトルバス

- 様々な種類の屋台が出ており、とても楽しい気分になった。並んでいる間にも見ることができ、待ち時間も退屈せずに済みました。
- 市街地行きのシャトルバスは主に通訳の面で大混乱する中、私も中学校の教科書的英語を初めて使って欧米人に道案内をした。
- 英語ガイドの人手は足りていたが、ガイドがぐだぐだで、シャトルバスのダイヤも乱れていた。
- 無料シャトルがイオンモールを経由していたのはとても良かった。外国人観光客も多くにぎわっており、また私たちも日用品等の補充をすることができた。
- 寄港地の方々が、どの方も一生懸命に全力で迎えてくださっているのが伝わってきた。ただ、個々の“一生懸命”がぶつかって運営がうまくいっていないように見えたので（周囲から「どうかしましたか」の声があっても「大丈夫です」と個人で解決しようとするなど）、横の連携がたりないよう感じた。
- シャトルの運行に関してモメているところを目撃したのだが、臨機応変な対応も重要であるが、「外国人観光客＝異国の地に来ている立場の客」が多い状態であること、言語がスムーズに通じる訳ではないことを考えれば、事前に配布した時刻表通りに運行させることは最優先事項であると思う。
- 外国人観光客からの Wi-Fi の需要の高さを強く感じた。（室蘭もそうであったが）港にすぐ Wi-Fi スポットがあるのは素晴らしかった。周辺で Wi-Fi 利用が可能なスポットの案内もあれば良いように思う。日本のスターバックスでは事前登録がなければ Wi-Fi 接続ができないことは、周知が必要なように思う。「スターバックスならばネットが通じる」と思いイオンモールのスターバックス周辺はごった返していた。
- イオンモールや瑞龍寺周辺店舗など、一般の店舗がまったくクルーズ客の受け入れ態勢を作れていなかったのは勿体なかった。
- 実際に、いくつかの店舗で対応等に関して店員の方に伺った。
  - ✧ スターバックス：英語対応可能スタッフなし、クルーズ寄港に関しては特に対応策なし
  - ✧ イオンモール内洋服店：英語対応なし、完全に通常営業

✧ 瑞龍寺近隣土産物屋：「豪華客船」の寄港は知っている、通常営業
✧ 無料シャトル瑞龍寺バス停最寄り土産物屋：英語表記準備（通常営業時から）

お見送り

- お見送りのセレモニーに感動。この日本文化に感動する外国人旅行客を見てまた感動。
- 花火が上がるなど、見送り行事が盛り上がっていました。残念ながら食事の時間とかぶってしまったためしっかり見られず。船外で見た消防の方のはしごを使ったパフォーマンスに感動しました。
- 出港の際の花火がかなり豪華だった。
- 「海の幸を食べる。」このことしか頭になかった。高岡大仏、瑞龍寺など、外国人にとって富山は日本風情を感じさせるところかもしれないが、日本人にとってはそれほど大きな町でもなく、大仏、寺にしてもそれほど有名なものではなく、訴求力は低いかもしれない。逆の言い方をすれば、めったに訪れることのない土地であるからこそ、ミステリーツアーのようで面白いというところはあるかもしれない。
-

室蘭

岸壁：タクシー

- 港の出店(でみせ)にて店先に立たれている方に話を伺う。
  - 出店（しゅってん）する店は、広告代理店の方がおひとりで決めたとのこと
  - 個人的には、もっと「北海道」の色が強く出ていても良いように思った。
  - 特に中国人観光客にとって「北海道」は今非常に魅力的だと聞くので、その知名度を生かした「ミニ北海道物産展」のような雰囲気でも良かったのでは と思う。たとえば、乳製品に「北海道」と書いてあったり、雪のモチーフであったりすると（雪まつりのイメージ）人気が高いそうだ。
- 室蘭入港後、船から降りると屋台が用意されていました。食べ物や雑貨などいろいろな種類がありましたが、のぼりなどは日本語での表記がほとんどで、お店にかなり近づかない限り、外国の方は何を売っているのかよくわからないのではないかと思いました。
- FM ラジオの生中継に出演しました。船の中について聞かれ、とても素敵な場所であることを PR しました。
- 室蘭入港のセレモニーが行われました。報道関係者が多く、サンプリンセス乗船時に参加したセレモニーと比べると、かなり緊張した雰囲気でした。船長さんのお話が面白かったです。

- 何故どこの港でもソーラン節をするのだろうか。港では室蘭 FM の生放送インタビューに応える。出店は日本的なものが多くて良かったが、テントが無地なことが少し気になった。
- 印象に残ったのは富山でシャトルバルが運行していたのに対し、室蘭ではタクシーが数十台で循環していたことだった。室蘭のタクシーは、船の中から軽く数えただけでも 35 台は港に来ていた。ただ、30 分ほど見ている限りではうまく循環していない印象を受けた。タクシー乗り場で長蛇の列が出来上がっていたのが気になった。シャトルバスを運行するよりもタクシーを回す方が地元への経済効果は大きいと思うが、乗客のことを考えればやはりシャトルバスもあった方が良いと感じた。
- 富山の出店では、食品類から地元特産のお土産物までバラエティに富んでいたが、室蘭では日本的なお土産ものが多かった。もう少し食品類を充実しても良いと感じた。北海道で美味しい特産物もたくさんあると思ったが、もったいないと感じた。室蘭の出店では北海道全体の特産物を広く取り扱った方が良いと感じた。
- シャトルバスがないことにはがっかりしたが、ロイヤルカリビアン社の意向ということで、仕方ないのかもしれない。近くに駅はあるという。観光を楽しみにしていたクルーはどのように繁華街へ出たのか気になるところであった。
- 前回、前々回の寄港地では、港の前がお祭りのように盛り上がっていたが、室蘭港にはそのような活気はみられなかった。港でお土産を買おうと思っていたが、それはできなかった。しかし、着物を 100 円で着られるコーナーがあり、外国人には人気だったようだ。
- 見送りのイベントは豪華で、船が遠くなっても「さようならー」と子供の声が聞こえてくるのには感動を覚えた。船に乗っている外国客も負けじと大声で「Sayonara!」と言っていたのにはまた、感動した。外国人が自分の国の言葉で挨拶してくれるのはなんだか嬉しい。

東京

- 下船すると、のぼりがたくさん挙がっており、オリンピック開催決定でとても盛り上がっていることがわかりました。都内を走るバスの電光表示にも東京開催を祝う言葉が表示されており、2013 年 9 月に東京に来た！という感じを強く受けました。
- 下船した港では、荷物を配送する業者が手配されており、非常に便利でした。前回、舞鶴で下船した時はコンビニを探して荷物を預けたので、こうしたサービスはすごく助かりました。
- 東京で下船。大井埠頭は一般人が立ち入ることができないらしく、歓迎ムードがあまり感じられず少し寂

しかった。というか、室蘭に 2 日停泊するくらいなら東京に 2 日停泊した方がずっと良いように思う。寄港地観光も、東京に長く滞在してくれた方が乗客の多くはありがたいと思う。＜補足：港の施設やスケジュールの関係です。今後の改善を期待。＞

- 外国人観光客の方々から「東京って何が有名なの？」「ショッピングはどこに行けば良い？」といった質問を何度か受けた。
- 一番最後に下船したため税関等は全く混雑していなかった。普段通ることのできない倉庫内等に特設の税関などがあったのは、ユニークな経験ができて良かったように思う。
- タイミングとして、オリンピック開催決定直後であったことがあるので、「オリンピックの時にもう一度来たい」と思えるような、もしくはオリンピックのころに「あの時 Tokyo にいた！」と思ってもらえるような、何かしらの“お祭りムード演出”があっても良かったかなあと思う。（Sail away のセレモニーであったのかもしれないが）（下船したので見学できず。）

地域活性化のためのクルーズ客船誘致

- クルーズ誘致の際、自治体どうしが一心不乱に誘致合戦するのではなく、観光に最適な出入港時刻や観光スポットからの距離を踏まえて、複数の自治体がタッグを組んで誘致できないのだろうか。
- クルーズ誘致に関して自治体の必死さが見えた。特に、隣接する県は競合するので難しいですが、船会社（寄港地を決定する機関）に日本の魅力を伝えられるよう、自治体どうしが協力すれば日本全体の魅力をアピールできるトリップモデルを提示できるのでは！（今回の富山・室蘭は、船の入れる港という形で決まったと聞いていますが、この寄港地で日本の魅力をアピールできたとは思えません。発着時間も観光に最適な時間帯とは言えなかったので。もったいない。）
- それぞれの地域の特性を活かした誘致が必要だと感じた。
- 観光客の誘致に慣れている港の自治体ばかりではないと思うので、自治体同士で観光客へのサービスや港のセレモニーの内容など情報交換をするのが良いと思う。
- 「船が目的地」で来られている方々だからこそ出る質問だと思う。「望み通りの場所に寄る訳ではない」というクルーズの特徴をいかし、こうした層の方々に各寄港地で特色をアピールできれば、クルーズだけでなく飛行機等での一般的な旅行におけるインバウンドの観光政策にも一役買えるのではと考えた。

クルーズ全般への感想

- 豪華客船に関して「動くホテル」「船は目的地」という表現がありますが、約 10 日間同じ船に乗り、一定のアクティビティしか出来ないのでは物足りないかな、と。やはり、好奇心のある若者には、目的地が大事。石垣や小笠原に寄港してダイビングできるプランなら正規価格で乗ろうという気になるかも。(個人的な意見)

クルーズ振興の在り方

- 今回は日経新聞、前回は MBS の取材があったが、専門誌や CS or BS 放送だけでなく、一般紙や地上波テレビにもどんどんクルーズが取り上げられると、一般人が広く利用しやすくなるのでは、と思う。
- クルーズ・港湾研究が進み、より多くの人に議論されるようになることも大事。
- 日本人、特に社会人は連続で休みを取りづらいので、短期でクルーズを楽しめるよう、思い切ってカボタージュを外せないものか、と思いました。(もちろん弊害も発生するでしょうが。) 私が無知なのかもしれませんが、TPP やオープンスカイのように市場の障壁を取り払う動きがあまり目立たない気がしています。
- クルーズで日本ファンを創出し、将来の訪日外国人観光客を増加に繋がればと考えます。
- 部屋の選択や航路にもよるが、場合によっては学生のアジア旅行と同じ程度の予算でも乗船することができるかもしれない。イメージの先行でハードルが上がりすぎていたのだと強く感じた。こうしたカジュアルなクルージングがあることがより日本で浸透すれば、クルージング旅行は、非日常感、エンターテイメント性、国際色などを兼ね備えるため、例えば大学生の卒業旅行などをターゲットにできるのではないかと思う。
- 日本語対応／日本人が考える「サービス」: 日本語対応や日本人観光客対応は、「一般的な海外旅行だと思えば○、日本人向けの海外旅行ツアーだと思えば△、日本人ターゲットの商売だと思えば×」であったと思う。今回の船旅は、航路や日本人の人数などを鑑みて「日本人向けの海外旅行ツアー」のようなものであったように捉えているので、△ほどかと考えている。ツアーガイドや代理店は存在したものの、実情としては1 グループに 1 人以上は英語 (もしくは中国語など) を話せないと旅が円滑には進まなかったのではと感じる。今後、日本近海を周る航路などで日本人観光客の増加を目指すとするなら、「旅で困らない程度の英語が使える日本人」だけをターゲットにしてしまうと市場が狭まってしまう。また、サービスの精度も現状のままでは厳しいのではないだろうか。それならば、いっそ単価を上げてサービスを充実させなければ、日本で (特に中年層以上を取り込んでの) マーケット拡大は難しいと感じる。

学生モニターで得られた新しい視点 (筆者 : 赤井伸郎の感想)

- 今回は、ロイヤルカリビアンインターナショナル日本総代理店 (ミキ・クルーズ) のご協力により、7 月のサン・プリンセスに続き、本年度 2 回目 (初回から 3 回目) の学生クルーズ体験の機会を得た。新たに参加した学生も、サン・プリンセスなどに乗船経験のある学生も、ボイジャーの大きさに、感動の連続だったようだ。

- 今回のクルーズは、天津発日本周遊。中国から日本へのクルーズは、昨年 9 月に勃発した尖閣諸島をめぐる政治的問題以来、ぱったりと中断されており、今回は、1 年ぶりに初めてと言ってよい日本周遊クルーズである。今年は結局、日本を回るクルーズは、この 1 本だけであり、試験的運用とも言えよう。船の大きさから、使える港の制約などもあり、寄港地や日程は、最善の物とは言えない印象を受けた。ただ、これは日本への試験的な運用でもあり、**この日本発着クルーズの機会を、国・自治体はしっかりと受け止めて、この経験を今後に活かさなければならない。今後の継続的な誘致のためにも、自治体の連携も大事である。**サン・プリンセスに比べて、日本人スタッフや日本語対応、日本食など、日本向けへのアレンジはなされていないという課題はあるが、欧米人とともに、完全な外国船で日本を回るという貴重な体験もできたと言えよう。
- 外国人にとっての今回のコースの目玉は、北海道にあったとも言えるであろう。しかしながら、入港した室蘭は、札幌からも遠く、交通は便利とは言えない位置にある。ボイジャーン大きさからの入港制約はあるものの、将来の観光客増に向けて、北海道の魅力を伝えるチャンスを十分活かせたのかは不安である。
- 寄港地（富山、室蘭）で行われたイベントは、どちらも素晴らしかった。これは、他の港との良い競争が反映されていると思われる。**このようなイベントに毎回出会えるということを、しっかりわかれば、これほど素晴らしいクルーズはない**と思うし、乗りたいと思う人も増えるだろう。
- また、地域活性化の視点では、来航は経済効果があると思われるが、寄港地（富山、室蘭）では、境港のように、街が一体でお迎えするという雰囲気はなく、街の連携は、感じなかった。**外国人客が来ることで、地元住民が一体となり、自分の地域の将来に希望を持り、意識改革につながる。これをじっくりと生み出していく試みが地域には求められている。**
- 学生レポートに関して言えば、今回参加した学生の内、1 名は、3 回目の乗船、4 人は、2 回目の乗船であり、これまでのクルーズとの違いも、報告されていることが特徴である。落ち着き感のあるサン・プリンセスと、遊びいっぱいのボイジャーという対照的な感想が浮き彫りにされている。
- サービスについて：**同じロイヤルカリビアン社の船であっても、カリブ海に比べ、アジア海域では、接客時の対応に甘さがあるように感じた。カリブ海は、欧米人相手に数多くの船が運航されており、競争が激しい一方で、アジアは、船も少なく、競争が少ない。その結果、クルーのモラルが低下しているのかもしれない。または、モラルの高いクルーは、競争の激しいところに配置されているのかもしれない。**今回は、特に、**レストランでの担当のウエイターのサービスの質（メニューを把握していない、注文の取り違え、その失敗をカバーするための過剰なサービスなど）があまりよくなく、印象が悪くなったのが残念であった。そのようなウエイターは少ないと思われるが、そのようなウエイターが 1 人でもいると乗客の間に、良くない噂が立つであろう。そのための評価であるから、しっかりと、悪い点は指摘することが大事なのかもしれない。**